

2014年合格目標 1.5年・1年本科生<スタンダード>

無料公開セミナー&講座説明会

『短期合格のための効率的学習方法』

担当講師 司法書士 土屋 武大

1. 短期合格を目指すには

(1) 司法書士試験は難しい？

(2) 短期合格に必要なものとは

⇒『整理された正確な知識』 & 『強い信念と明確な目的意識』

(3) 『条文』と『過去問』を制する者が本試験を制する

① 条文 + α

② なぜ過去問が重要なのか

③ 知識を追い掛け回さない

④ 氾濫する情報に翻弄されない

⑤ 答案練習会について

2. 司法書士試験において克服すべき課題

(1) 膨大な分量

(2) 出題科目・出題数

午 前 の 部	科目	択一式
	憲法	3 問
	民法	20 問
	刑法	3 問
	商法（会社法）	9 問

⇒『実体法』が出題される。

午 後 の 部	科目	択一式	記述式
	民事訴訟法	5 問	—
	民事保全法	1 問	—
	民事執行法	1 問	—
	司法書士法	1 問	—
	供託法	3 問	—
	不動産登記法	16 問	1 問
	商業登記法	8 問	1 問

⇒『手続法』が出題される。

※主 要 4 科 目…民法・不動産登記法・商法（会社法）・商業登記法

マイナー科目…憲法・刑法・民事訴訟法・民事保全法・民事執行法・司法書士法・
供託法

(3) 主要4科目とマイナー科目の違い

(4) 各科目を細分化する

⇒ 分野ごとの出題数、出題内容の違いを知る

例：民法を細分化する

平成24年度本試験より

①総則 3 問

②物権 4 問

③担保物権 5 問

④債権 4 問

⑤親族 3 問

⑥相続 1 問

(5) 出題形式

「択一式」は五肢択一の形式で出題される。

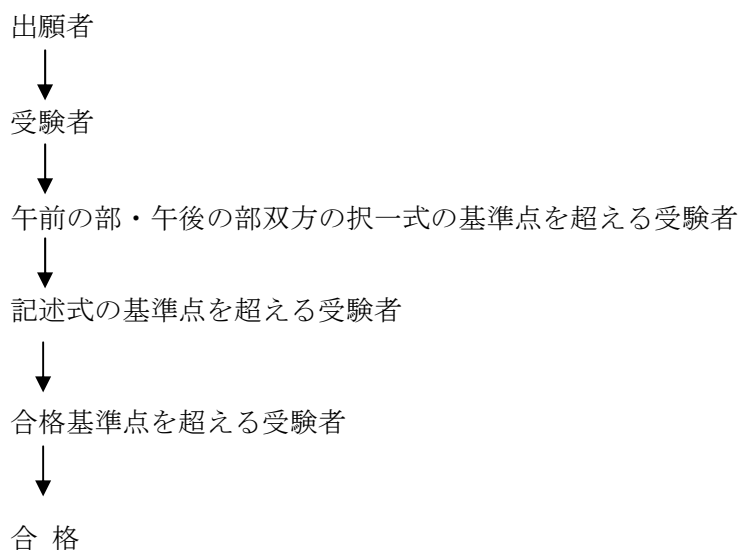
- ①単純正誤
- ②組合せ（大半を占める）
- ③個数算定（難易度高い）

⇒ 膨大な知識量、精度の高さ、スピード

「記述式」は登記申請書の作成やその他の事項についての記述を求められる。単に申請書が書ければよいというのではなく、事実関係や書面から必要事項や問題点を読み取り、実体上の判断を踏まえて登記申請をするという極めて実務的な処理が求められる。

3. 合格ラインを常に意識する

(1) 合否の判定方法



(2) 基準点一覧

	午前の部択一式	午後の部択一式	記述式	合格基準点
平成 14 年度	81 点 (27 問)	75 点 (25 問)	32.5 点	206.0 点
平成 15 年度	84 点 (28 問)	72 点 (24 問)	36.0 点	208.5 点
平成 16 年度	78 点 (26 問)	72 点 (24 問)	31.5 点	197.0 点
平成 17 年度	87 点 (29 問)	78 点 (26 問)	25.5 点	203.5 点
平成 18 年度	81 点 (27 問)	75 点 (25 問)	31.5 点	202.5 点
平成 19 年度	84 点 (28 問)	84 点 (28 問)	30.0 点	211.5 点
平成 20 年度	84 点 (28 問)	78 点 (26 問)	19.5 点	189.5 点
平成 21 年度	87 点 (29 問)	75 点 (25 問)	41.0 点	221.0 点
平成 22 年度	81 点 (27 問)	75 点 (25 問)	37.5 点	212.5 点
平成 23 年度	78 点 (26 問)	72 点 (24 問)	39.5 点	207.5 点
平成 24 年度	84 点 (28 問)	78 点 (26 問)	38.0 点	215.0 点

※平成 20 年度までは記述式が 2 問で 52 点満点とされていたため、試験全体の合計点は 262 点満点だった。

(3) 平成 24 年度司法書士試験筆記試験における基準点等にかかる員数

	基準点等	クリアした員数
①	午前の部 (択一式) 84 点 (28 問)	2, 992 名
②	午後の部 (択一式) 78 点 (26 問)	4, 101 名
③	午前の部・午後の部双方の択一式の基準点を越える受験者	2, 169 名
④	午後の部 (記述式) 38.0 点	1, 145 名
⑤	合格基準点 (総合得点) 215.0 点	1, 008 名
⑥	合格者 (③④⑤を全て満たす)	838 名

(※受験者数 24, 048 名)

(4) 得点目標を定める

4. スケジュールをよく考える

(1) 焦りは禁物、後になって理解できることも少なくない

⇒一通りやってみる

(2) 直前期の重要性

⇒逆算の発想

5. 講義をどう活かすか

- (1) 勉強時間はどれくらい必要なのか
- (2) 講義と自習の密度の差
- (3) 問題の所在を明確にする
- (4) トレーニングとミニテストの活用
- (5) 講座を受講さえすれば合格できるのか

6. 何をなすべきか

- (1) 知識量だけでなく精度の高さが重要
- (2) いたずらに完璧を目指さない
- (3) 単なる暗記のみでは対応できない
⇒記憶する作業は不可避
- (4) 繰り返すことの重要性

7. 講義方針

- (1) 条文・過去問の重視
- (2) 制度趣旨を明らかにする
- (3) 理解と記憶
- (4) 常に全体像を意識する
- (5) 横断的な整理

(6) しっかりとした知識の定着

(7) 合格に必要な知識の線引き

(8) 好きこそ物の上手なれ

8. 短期合格者と長期合格者との違い

9. これから司法書士試験に臨むにあたって